

件名	第7回 エキサイトよこはま 22 懇談会		
日時	2016年5月30日(月)	17:00 ~ 19:00	場所 横浜アイランドタワー 10階大会議室

1. 開会

(横浜市 平原副市長)

開会あいさつ

大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。昨年、西口の駅ビル開発と馬の背解消事業について、本体工事を着手いたしました。また、広い視点で西口全体の将来を語るために、西口駅前まちづくり検討会を開設いただき、現状と課題の共有をさせていただきました。

また、東口でもまちづくりの機運が高まってきております。ステーションオアシス地区についても検討は前進しておりますが、一步前進するたびに、厳しい課題も出てきております。さらに前進していくためにも一つ一つ課題を整理しながら進めていく必要があるかと思っております。

さて、皆さんご承知のとおり 2019 年にはラグビーワールドカップ、翌年の 2020 年には東京オリンピック・パラリンピックと、開催が目前に迫ってきております。この 2019 年、2020 年を全ての目標にする必要はないと思っておりますが、2019 年、2020 年を、何を、どの状態で、どう迎えるかという大きな節目の年次になると思っております。

本日は昨年度の取り組みと今後の目標を説明させていただきます。皆様から忌憚のない意見を頂戴しながら、今年度の新たなスタートと位置づけさせていただければと思います。

2. 議題

(横浜市) 事務局からの議題説明

「平成 27 年度の主な取組と 28 年度以降の取組・検討事項」

(1) 西口

- ・ (仮称) 横浜駅西口開発ビル
- ・ 西口地下街中央通路接続事業 (馬の背解消)
- ・ 中央西口、きた西口駅前広場の検討
- ・ 鶴屋橋架け替え工事
- ・ 国家戦略特区 (きた西口鶴屋地区)
- ・ 地下街の防災推進
- ・ 西口将来まちづくり検討

(2) 東口

- ・ 東口基盤整備
- ・ 横浜駅東口地区開発 (ステーションオアシス)

(3) 横浜駅周辺地区全体

- ・ 治水対策
- ・ 防災の取組 (地域総合防災拠点)
- ・ 交通政策審議会答申第 198 号での位置付け
- ・ 横浜駅周辺案内サインの更新
- ・ エリアマネジメントの推進

(4) 横浜市駐車場条例の一部改正について

(5) 市営地下鉄ブルーライン快速運転の実施状況について

以上説明を行った。

(横浜駅西口振興協議会 猪俣氏)

エリアマネジメント推進として8月には横浜西口夏まつり、10月には、西口初のハロウィンイベント、11月にはイルミネーションとして、今回初めて新田間川の護岸にイルミネーションを施しました。また、3月には宝探しイベントのほか、第1回スポーツごみ拾い大会を開催しました。これらイベントにつきましては、エキサイトよこはまエリアマネジメント協議会の後援名義をいただいたことで、告知強化を図ることができ、にぎわいづくりを図ることができたものであり、地域としても大変感謝しております。

このほか、横浜西口桜プロジェクトを行いました。これは東日本大震災5年を迎えるにあたり、募金活動と連動して、通称馬の背解消工事仮囲いに桜の木をモチーフとした装飾を施し、募金された方には、桜の花びらのシールを貼っていただくというものでございます。

以上、簡単ではございますが、横浜駅西口のエリアマネジメント活動を報告させていただきました。これからもエキサイトよこはまエリアマネジメント協議会を通じて、横浜駅西口の活性化にぎわいづくりを創出していきたいと考えております。

(横浜駅東口振興協議会 大石氏)

横浜駅東口におけるエリアマネジメント活動は、横浜駅東口振興協議会と横浜駅東口はまテラス有効活用委員会がでございます。

横浜駅東口振興協議会では、西口と同様に地域住民の皆様や企業の皆様と一緒に駅周辺の清掃活動などを行っております。また、はまテラス有効活用委員会では、そごう横浜店及びスカイビルの公開空地を利用して、イベント等を実施することで地域のにぎわいを創出し、東口エリアの活性化に寄与することを目的としております。昨年度においては、リサイクルマーケットやはまテラスマルシェのほか、音楽活動や家族での参加型イベント等、年間9件、延べ150日間の活動実績がございました。

以前はそごう横浜店及びスカイビルの公開空地をイベントや物販等で使用することはできませんでしたが、平成26年度からは神奈川県より公開空地の使用に関する許可をいただき、今年度の2月にエキサイトよこはまエリアマネジメント協議会の団体として認可を受けたことで横浜市への手続も簡略化できるようになりました。また、イベントの内容に応じてエキサイトよこはまエリアマネジメント協議会の後援名義をいただけることになり、横浜駅東西の活性化を目的として、さらなるにぎわいの創出を図ることができるようになりました。

これからもエキサイトよこはまエリアマネジメント協議会の後援名義を頂戴いたしまして、横浜駅東口の活性化、にぎわいの創出に向け努力してまいりたいと思います。

(国土交通省水管理・国土保全局 加藤下水道部流域管理官)

水位周知下水道の概要について資料をお配りしていますが、これは、前回の懇談会の際にもお話させていただきました。内水に対して官民挙げて82ミリという、しっかりとハード整備を行うというお話が横浜市よりございましたが、最近の雨の状況を見ていると、どんなに強い雨が降るかわからないということがございます。この水位周知下水道は、昨年法改正を行い、つくったものです。今までは、下水道から水があふれた後の路面の状況を見て、例えば避難誘導を地下街管理者が行っていましたが、時間が限られた中で下水管の中の水位を観測しておき、危なくなったら、地下街管理者にも伝えていくという下水道のソフト対策でございます。

また、この水位周知下水道指定は横浜市が全国第1号でございます。現在、国土交通省でも予算を用意し、横浜の下水道サイドと一緒に、調査研究を進めております。まずはハード整備をしっかりとすることが基本でございますが、こういったソフト面での検討も進めさせて頂いております。

■質疑、意見交換

(横浜市 平原副市長)

事務局から議題の説明ありがとうございました。ご意見、ご質問のある方は、ぜひ挙手をして、マイクを回しますので、よろしく願いいたします。

(鶴屋地区街づくり協議会 倉知理事長)

鶴屋地区街づくり協議会の倉知です。3点、質問と1点、お願いをさせていただきます。

1つ目は、資料3の7ページ、きた西口駅前広場に関してお伺いします。鶴屋橋の期待される効果の欄に歩行環境の向上というのがございますが、鶴屋橋が現在の幅員2mから5mに広がることによって歩行環境が向上するという意味だと思っておりますが、現状、横浜駅きた西口から鶴屋橋に行くまでの歩道幅員がかなり狭く、鶴屋橋にたどりつくまでが大変な状況であります。それを踏まえ、歩行環境を向上させるために、きた西口駅前広場の鶴屋橋ときた西口の結節点であります角の再生がなされなければ、せっかく鶴屋橋が拡幅されても意味がないと地元は考えております。きた西口から鶴屋橋の空地の中で、川の蓋かけを含めてできるだけ広場を確保していただき、円滑な歩行ができるようにぜひお願いしたいと思います。なお、これに関しては、去年も同じ質問をさせていただきましたので、この1年間で、神奈川県との協議を含めてどのような進捗があったのか、ぜひお聞きしたいと思います。

2つ目は、資料3の8ページ、鶴屋橋架け替え工事で期待される効果として、鶴屋橋の橋脚を撤去することにより、通水量が増加し、台風の際の浸水被害の際の治水安全度が高まるとありますが、実際に、現状でどの程度、平成16年の台風22号クラスの場合であれば、どの程度緩和できるのか、どの程度想定されているのかお聞きしたいと思います。

3つ目は、馬の背解消工事についてです。現在、馬の背解消工事と同時に横浜駅西口開発ビルの工事が行われている関係で、中央通路から西口上がったところがとても狭くなっています。特に、鶴屋町方面に来る道が本当に狭く、混雑するときは怪我をするのではないかと思っております。駅構内の案内を見ると、左に大回りして鶴屋町方面へ行ってくださいと書いてありますが、そんなに目立つ案内になっておらず、鶴屋町方面に行かれるほとんどの方は、習慣的に中央自由通路を出ると右へ曲がってしまいます。このため、ぜひ案内の明確化、また、中央自由通路から右へ曲がったとしても、親切な案内をしていただけるよう、表示をお願いしたいと思います。

最後に、これはJRへのお願いになりますが、馬の背解消工事が始まった際にJRの館内放送で鶴屋町方面は工事中ですのでご注意くださいと、アナウンスが流れていました。現在は、それが流れていないため、可能であれば、鶴屋町方面にご利用の方は、きた西口改札をご利用くださいとか、きた西口改札が便利ですか、アナウンスのご検討をお願いしたいと思います。

以上でございます。よろしく願いいたします。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。事務局の方からお願いします。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

まず、治水の効果についてですが、平成16年の台風22号クラスはエキサイト計画をつくる際に想定しております。資料3ですと、22ページの表をご覧ください。平成16年の台風22号クラスでも、河川が氾濫せずに済むための対策を、表の一番左側、第1ステージに記しております。主な対策として、河口部の改修と鶴屋橋の架け替えがございまして、河口部の改修では、横浜駅から海に出る、みなとみらいの付近で狭くなっている箇所を、拡幅をしていく計画になっております。その拡幅事業は現在、神奈川県が進めております。もう1つの鶴屋橋の架け替えですが、現在ある鶴屋橋の橋脚を架け替えにより撤去することで、河口に流れる水の流量をきちんと確保できるようになります。

この2つがまず、河川側の対策で行っていく内容ですが、このほかに現在、進めている海域放流管のような対策や、河床の深さまできちんと浚渫を行っていくことで、平成16年の台風22号クラスの雨が降っても、河川が氾濫せずに済むのではないかと神奈川県と協議を進めております。

次に、2つ目の鶴屋橋の歩行者空間における、横浜市の取り組みと、それを踏まえた神奈川県との協議状況ですが、最終的な形までできておりませんが、本日資料で示させていただいております矢印の方向を、歩行者の通る空間として確保することで神奈川県と協議を進める段階まで来ております。それから、3つ目の馬の背解消工事の際の鶴屋町方面への案内についてですが、西口開発ビル工事はJR、馬の背解消工事は相鉄で複層して行われております。この中で、なるべく通行される方にご迷惑がかからないように、また、適切にご案内ができるように、各鉄道事業者や、開発関係者で集まって、工程調整の打ち合わせを進めております。

最後に、4つ目のJRの案内放送についてのご要望ですが、工事着手時から伺っており、効果があると思っておりますので、案内の点含めてJRよりお答えいただければと思います。

(東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 有山総合企画本部品川・大規模開発部長)

JR東日本、品川・大規模開発の有山でございます。昨年の10月から横浜駅の工事に着手いたしまして、今年の春から本格的に工事着手しております。非常に狭い場所で工事しており、地元の皆様や周辺の商業事業者様、各事務所の皆様に大変ご迷惑おかけしていることは重々感じております。ただ、オリンピックまでに何とか横浜の顔をつくり、地元の皆様に喜ばれるよう一生懸命やっておりますので、ある程度のご容赦をお願いさせていただきたいと思っております。また、皆様からのご要望をいろいろ賜りながら、改善できるものはしていきたいと考えております。

そのような中で、今、倉知様より2点、具体的なお話があったかと思っております。

まず、1つ目の駅から出たところの誘導サインの問題でございます。これにつきましては、私どもも同様に認識しております。早速ではあります、6月1日から一部サインの案内を大きくするなど、準備を進めてございます。まだ工事中ですので、案内の誘導路も、時々変わるかと思っております、できるだけわかりやすくなるような対応を取っていきたく思っておりますので、引き続きご意見賜りながら一緒に調整をさせていただければと思っております。

それから、2点目の駅の案内放送の件でございます。どうしても中央通路にお客様が集中してしまいますが、できれば、南、北の改札口もご利用いただきたいと思っております。これについて、早速本日から、西口周辺に行かれるお客様に対して、北通路から北西口、南通路から南口のほうへご利用くださいという案内を始めております。まだまだ不足かと思っておりますし、内容がわからないところがあるかと思っておりますが、できるだけ駅をご利用のお客様が、地元でゆったりとお買い物や生活いただけるよう、私どもとしても、努力してまいりたいと思っておりますので、ご意見賜りながら支援させていただければと思っております。もしお時間ございましたら、ちょうど本日の夕方から案内放送をはじめているかもしれませんので、お聞きいただければと思います。

2020年まで駅ビルの工事がございますが、ぜひとも良いものをつくりたいと思っておりますので、ご協力お願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。きた西口の鶴屋橋の件で、神奈川県より補足ございますでしょうか。

(神奈川県県土整備局 上前河川下水道局部長)

神奈川県河川下水道部長、上前でございます。

横浜市の方からご説明いただきましたとおり、現在、横浜市と議論を詰めている状況でございます。我々としては、河川の立場から議論をさせていただいております。横浜市とまちづくり全体の中で

鶴屋橋の歩行者空間について、事務レベルで議論を積み上げ、協議を詰めていきたいと思っております。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。

(神奈川区青木第二自治会町内会連合会 澤会長)

神奈川区青木第二連合会の澤でございます。質問とお願いがございます。

まず、昨年の後半から今年にかけて、鶴屋橋地区において、開発事業者から都市計画に始まり、敷地の地形、建物の仕様概要、それに伴う環境評価の調査結果等の説明会が数回行われました。地元としても、非常に関心が強いので、会合を数回行いました。会合が行われるたびに計画内容は進展していると、私どもは感じております。

そこで、質問ですが、資料3の10ページの中央にある地形ですが、平成26年の第5回懇談会の資料を拝見しますと、ここは、JRの歩行者デッキとなっております。それが今回、敷地の一部のようにとなっております。もし敷地であれば、敷地面積が増えたことによって当初計画していたものよりも大きな建物が立つことになったのか、また、整備されたデッキの所有者は誰になるのか教えていただきたいと思っております。仮にデッキの所有が、事業者であれば、今後管理の問題も出てくると思っておりますので、そのあたりも含め、どういう考えで認可をされたのか、教えていただきたいと思っております。

次に、お願いですが、地元としては、毎年懇談会で申し上げているとおり、交番の設置をお願いしたいと思っております。これは、東横線が地下化となり、その上の敷地をフラワー緑道として整備する際からお願ひしている十年來の話でございます。つきましては、新しい開発が行われ、環境が変わってくるこの機会に、積極的に動いていただき、実現していただきたいなと思っております。

以上でございます。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

横浜市からお答えいたします。

まず、きた西口鶴屋町地区の新しい開発区域についてです。ご指摘のとおり、当初はJRの開発における都市計画提案の中で、駅と駐車場を結ぶ連絡デッキの整備を計画しておりました。その後、横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発準備組合の皆様やJR、横浜市にて調整を行いました結果、本日ご提示した開発計画の形となっております。機能といたしましては、当初予定していたものと変えてございません。ただ、整備を行う事業者が変わってきた中で、本日ご提示させていただいた形で整理させていただきました。

その上で、ご質問いただきました、敷地面積が増えたことによってより大きな建物が立ってしまうのではないかとという件でございますが、鶴屋町地区の再開発につきましては、敷地が増えたから容積を増やしたという形ではなく、国家戦略特区という形の中で整理しております。この国家戦略特区の中でも国際的な住宅を入れていくことを踏まえながら、横浜市のルールの中で公共貢献と容積の緩和という形で整理をさせていただいているものでございます。

次に、デッキの所有者はどうなるのかという点です。これは当初から、横浜市が財産を持って管理をしている道路ではなく、民間の皆様が所有し、一定の管理をしていただく形で横浜市と整理をさせていただいております。そういう中で、どういう管理を今後、行っていくのかという点につきましては、所有する方々と横浜市で具体的に協議をして、定めていく予定でございます。

それから、交番の設置についてです。都市整備局や神奈川区と連携して、神奈川県警に要請をしている段階でございますが、なかなか協議も難しい状況にあることが今の状況でございます。そういうことを踏まえて、また地元の皆様と調整をさせていただき、神奈川県に伝えていく形で対応させていただきたいと考えております。以上でございます。

(横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発準備組合 中山理事長)

当地区の再開発に向けては、日ごろよりご協力いただきありがとうございます。

現在、再開発事業については、間もなく都市計画決定に向けてスケジュールどおり進んでおります。これも横浜市都市整備局はじめ行政の方々のご協力のもとだと思っております。横浜駅周辺のまちづくりの推進のために、早期に事業を実現したいと思っておりますので、引き続きご協力お願いいたします。工事費が現在でも高騰している状態ですが、国家戦略特区に指定された重要なプロジェクトであります。円滑なる事業推進のためにも当事業に対する補助金が支給されるよう、引き続きお願いいたします。

今、澤様よりご質問のあった件ですが、事務局がお答えしたとおり、再開発が起きた場合には、道路等が整備され、さらに言えば、できた建物の中も通行できることも含めれば、地元の皆様の利便性は格段に向上すると確信しております。

あと、私の個人的な考え方ですが、この西口の中央広場のところ、資料3の6ページ、駅前の印象的な景観を形成する大屋根の検討についてです。これをぜひ、斬新なデザインで横浜市らしさを演出してもらいたいと思っております。あわせて、きた西口駅前広場においても、小さいですが屋根の整備と書いてあります。西口の広場もそうですが、きた西口広場に関しても狭さをカバーし、広く見える知恵を絞ってもらいたいと思っております。以上です。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

横浜市からお話しできることは西口開発ビルと、エキサイトのビジョンに合わせて駅前広場をきちんと整備していくということが大きなテーマとなっております。その中で、デザインを有する方々のお知恵をかりて、どうやってきちんと修景していくか、検討を進めており、大屋根のテーマで今、議論をしているところでございます。その辺りを早目に固め、西口を、横浜を代表する駅前広場空間にしていきたいと思っております。

もう1つは、きた西口のところです。面積的には非常に小さいですが、隣に水もあるので、修景を中心にして、しっかりとデザインをしていこうと検討しております。修景の検討に進捗があり次第、皆様にご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくごお願いいたします。

(横浜駅西口振興協議会 千原副会長)

横浜駅西口振興協議会の千原でございます。

先ほどご説明ありましたところに関連しまして、3点、お願いをさせていただきます。

まず1点目、公共空間等の利活用についてです。横浜駅西口開発ビルと馬の背の解消工事に関して、工事期間中の安全面、通路動線の確保、現場周辺の環境面につきましては、私ども相鉄アーバンクリエイツも馬の背の解消工事を担う立場として、JRとともに十分に配慮してまいりたいと思っております。西口振興協議会としましては、少しでも工事期間中の閉鎖感や閉塞感を緩和するために、街のにぎわいを創出するための施策を検討して実施していきたいと考えており、横浜市様、JR様はじめ皆様の協力をお願いしたいと思っております。

また、各種イベントや、にぎわいを創出する施策には広場空間を使用することも必要になります。これまでも高島屋正面玄関前やバルナード通り等の使用に当たりましては、横浜市様はじめ皆様のご支援いただき、大変感謝しております。今後さらに横浜駅北部自由通路内や南部自由通路内などの公共空間の利活用につきましても検討、ご協力いただければと考えておりますので、よろしくごお願いいたします。

次に2点目、駅周辺における環境の美化でございます。とりわけ横浜駅みなみ西口、相鉄口の喫煙禁止エリアにつきましては、喫煙所のハマ・マナステーションの外に人があふれるような状況や、

道に吸い殻が放置される状況があり、周辺環境もよろしくない状況になってございます。悪いイメージが固定化して、外来者から敬遠される街になってしまわないよう、問題解決が急務だと考えております。

これに関して、先ほどのご説明でありました、清掃活動マネジメントの一貫としての横浜駅環境美化推進プロジェクトの検討を進める件につきましては、地元としても協力をいたしますので、さらに色々な多面的な施策、そして、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後に3点目、これは規制緩和、あるいは手続の簡素化のお願いでございます。現在、手続が進んでおります、きた西口鶴屋地区の再開発事業でございますが、これは西口振興協議会のメンバーでございます相鉄アーバンクリエイティブが再開発組合の事務局になっておりまして、都市計画の手続が終えるような目処がたってまいりました。この間の行政の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げますとともに、各種要件の緩和や手続の簡素化というのは、これから横浜駅周辺の開発を促進することにつながりますので、今後とも引き続きよろしくお願いをいたします。以上の3点でございますが、横浜駅周辺が、国内外から人が集まって都市間競争に負けない街になりますように、ぜひご支援よろしくお願いをいたします。以上でございます。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

今いただきました3点についてですが、1点目は公共的な空間の活用に関する視点だと考えます。我々も、この西口開発ビルや馬の背解消工事、これから出てくる西口の事業について、工事中であっても、西口に来られる方が安全に通行できる視点や、西口の商業施設への行きにくさを最小限に抑える対策を講じながら、工事をしていくことは重要なことだと考えております。そういう取り組みを、工事を担当される皆様、地元の関係者様、商業事業者様と一緒にやって横浜市ができることを考え、一生懸命進めていきたいと思っております。

次に、2点目の環境美化のところにつきまして、駅前の西口中央駅前広場、きた西口の駅前広場につきましては、しっかりと整備をしていく形を打ち出しておりますので、駅ビルとあわせて整備をしていくことになると思います。その中で、西口にふさわしい空間にしていくことを考えています。また、先ほどお話がありました、高島屋の裏の幸栄、五番街の間にあります喫煙スペースにおいて、喫煙者が狭いスペースから溢れている状況は、我々も認識をしており、西区役所が中心になって、さまざまな検討を始めていると聞いております。この検討について都市整備局も状況について共有し、オール市役所として取り組もうとしております。ただ、行政が全て対応できるかというところ、なかなか厳しいところもございまして。環境美化について、地元の皆様も、周辺に関する様々な取り組みをされていると伺っております。その取り組みを、地元の皆様と我々が役割分担をしながら、協議、調整をさせていただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それから、3点目の規制緩和についてです。横浜駅周辺は、さまざまな規制緩和や開発誘導につながることをこれまでも行ってきております。その1つは、国家戦略特区などを活用し、国ベースで緩和をしていただくこともあります。それに合わせて、ルールも色々な形で緩和できるところは緩和していこうと考えており、環境アセスの適用範囲については、少し柔軟的に考えているところでございます。また、本日ご紹介しました、駐車場の台数につきましても、実態に合わせて少し多いところは、適性化していくことも行ってまいります。この取り組みを進めていく上で、やはり地元の皆様からも案をいただくも大事だと思っております。そういった話し合いを通じて、今後とも様々な取り組みにチャレンジをしていきたいと考えているところでございます。簡単ですが、以上でございます。

(横浜駅東口振興協議会 野並副会長)

東口振興協議会の野並でございます。東口に関しまして3点お願いをさせていただきます。

まず、1点目として、東口は海が近く非常に狭い場所でございますが、そこに国道1号線や、通過車両のためはかなりスペースをとられ、東口の利用者が不便をしております。これを何とかしてほしいと申し上げてきているわけですが、その中で、みなとみらいと東口を結ぶ支線1号線が計画をされております。これが完成すると東口とみなとみらいが車道で結ばれ、文字どおり東口がみなとみらいの玄関口になると思います。ただ、そのためだけに支線1号線をつくるのではなく、国道1号線の交差点化や、東口駅前広場の新設をあわせてやっけないと、支線1号線が生きてこないのではないかと思いますので、総合的な開発をお願いしたいと思います。

次に2点目、現在、平沼一丁目交差点から4車線の道路が万里橋を渡り、東口駅前広場で行き止まりになっております。ここが、昔は国道1号線と繋がっておりましたので、元通りにしたらどうなるのかと前は考えておりましたが、最近考え方を変えました。昔のように国道1号線につなげますと、今以上に通過車両が多くなる気がしますので、今までと同じように、万里橋を渡ったところで行き止まりにすることで、ご検討をお願いしたいと思います。

それから3点目、みなとみらいと新横浜通りの接続がいま一つよくないと思います。現在は、紅葉橋交差点と、高島町交差点の2ヶ所ぐらいしかなく、高島二丁目の狭い道路が特に夕方、通過車両で混雑しております。この紅葉橋交差点と高島町交差点の間にもう一本、みなとみらいの出口をつくっていただき、それから新横浜通りに出られるようにしていただければ、車両の混雑が大分改善されるのではないかと思います。それができないのであれば、高島町交差点を改良して、スムーズな車両通行ができればと思っておりますので、よろしくご検討いただきたいと思います。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

まず1点目、支線1号線を含めた交通インフラについてですが、現在、支線1号線と新しい東口の駅前広場、それから東西を結ぶ歩行者デッキ、この3点のインフラと、それから郵便局の付近の開発をバックにして計画を掲げてきている状況でございます。これら計画が固まり次第、支線1号線につきましても、都市計画を変更し、事業につなげていきたいと思っております。

次に、2点目の平沼一丁目交差点から東口に入ってくるところで行き止まりになっている点について、東京方面から東口駅前広場に入ってくる際に、1度通過し、Uターンしてから入ってこなければならぬ状況を、通過車両を呼び込まない形で交通計画ができないか、現在、我々で検討を進め、県警と調整を進めております。これについて、なるべく早く整理をさせていただき、地元の皆様へご説明させていただきたいと思っております。また、本日ご提案いただきました、現状のまま行き止まりにするなどの方策につきましては、また別途時間を設けさせていただき、お話を伺わせていただきたいと思います。

それから、3点目の新横浜通りとみなとみらい、あるいは横浜駅周辺との接続につきましては、エキサイト計画の中でも、何とかできないか、岸井先生などからもお話を承っていたところでございます。その中で議論していたのは、より首都高を有効活用することや、ご要望いただきました交差点改良など、横浜都心全体の交通を円滑化する議論がございますので、本日いただきましたご意見をどこかの段階で調整をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。そろそろまとめに入りたいと思っておりますので、東西振興協議会の会長、およびコーディネーターよりお話をいただきたいと思います。まずは、西口振興協議会の鳥居会長からお願いできますでしょうか。

(横浜駅西口振興協議会 鳥居会長)

鳥居でございます。

まず、常日頃より西口に対しても、開発に関しましても、さまざまご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。先ほど話がございましたように、駅周辺では、西口開発ビルや馬の背解消工事に入っており、これが完成しますと、西口地区のポテンシャルがアップしていくと思っております。

ご存じの通り、只今地域間競争が大変激化しております。我々がライバルは銀座、日本橋、新宿で、これらに勝つためには、まず都市基盤整備が第一歩だと思いますので、これから先をどうしていくかが重要でございます。こういった中、まず何が問題かと申しますと、西口開発ビルが完成するまでに4年もの期間がかかるということで、この間、駅前広場の動線は、大変混雑をいたします。現状ただでさえ、混み入った中で、4年間工事が進むことに対しては、我々も非常に危機感を持っております。特に、通学、通勤の方々に対しましては、大体43万人の半分23万人が西口を通過するわけでございます。また、9時半以降のお買い物に対しましては、大変不便をおかけするわけで、工事が4年間も続きますと、西口のポテンシャルが低下する可能性がございます。従って、我々も今後とも西口の改良に対して、さまざまな手段を講じ、精一杯努力して参る所存でございますので、皆様におかれましても引き続きご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

一方、駅周辺におきまして、地区全体を俯瞰して見てみますと、2つの問題があるという気がしております。まずは、バリアフリーにほど遠い駅の歩行者動線の問題です。あの動線では車椅子は全く通行できないと思っております。以前、この問題を質問したところ、周辺の再開発が出来れば可能という返答がありましたが、この回答が12年前と全く変わっておりません。私が新入社員のときに担当しました幸栄地区の再開発事業がもう40年間ほど前でございます。その間、駅周辺の交通動線については全く変化がないので、可及的速やかな対応を別途お願いしたいと思っております。

もう一点は、圧倒的に不足する公共空間、そして、駅前広場機能の不足でございます。これは、現在の延長ではなく抜本的な発想の転換により、新しい観点からの対応をお願いしたいと考えております。つい最近、新宿のバスタというところを見てまいりました。そこではJRの駅にふたをかけ、バスターミナルとタクシー乗り場を集約してございます。こうしたことも踏まえ、圧倒的に不足する公共空間、駅前広場機能改善については、抜本的な対応を考えていただきたいと思っております。それから、皆さんご存知のとおり、横浜・神奈川県におきましては、人口減少社会に入っており、神奈川県相模原以西では、既に人口が減少しております。手前どもは鉄道駅を持っておりますので、横浜から遠ければ遠いところほど、人口と一蓮托生という関係があるわけです。その反面何が問題かと申しますと、東京に人が集中しているということでございます。これをどうやって解決するかということも、これまでの価値観ではなく、違う価値観をもって新しい概念を導入しないと横浜、神奈川の地盤沈下に差があると思っており、これはぜひとも民管レベルの合同の協議を開始したいと思っております。

これまでのまちづくりを見ますと、人口が絶えず増えてくることを前提に物事をつくり、さまざまな施設を分散化してきています。今、地方ではコンパクトシティ化、分散から集約化へと進んでいるようでございます。人口減少社会を前提に、横浜地区におきましてもぼちぼち集約という問題について、少し考えたほうが良いのではないかという気がするわけでございます。

色々なことを申し上げましたが、いずれにしましても、私どもは民間であり、エキサイトよこはま22に対しまして、大変大きな期待をしており、これらに寄与する開発に対しまして、精一杯頑張る所存でございます。皆様におかれましても、再開発を実施しやすい制度の新設において、既成概念を捨てていただき、まちづくりを推進できるような環境を整えていただければと思います。大変勝手言って恐縮でございますが、よろしくお願い致します。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。続きまして、東口振興協議会の小谷会長よりお願いいたします。

(横浜駅東口振興協議会 小谷会長)

横浜駅東口振興協議会の小谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、横浜駅周辺の開発実施状況について、ご説明いただきましてありがとうございます。

横浜駅西口では、先ほど副市長からお話ございましたように、鶴屋橋の架け替え、それから西口開発ビルの工事が始まり、色々と実際に目に見えるような形で工事が進んでおりますが、東口は全然何の動きもなく、しゅんとしております。そんなことを含めまして、西口が大変うらやましい状況です。東口の基盤整備、再編につきましても、横浜市を中心に計画づくりが進められ、計画や構想そのものが一進一退したりして、まだ足がきっちりとは地についていないということがございます。そのような中で、平成28年度中に都市計画決定をご検討されるとお話を伺っておりますが、国際都市横浜の玄関口としてふさわしい、魅力ある玄関口といたしまして、魅力のある再開発をお願いしたいと思っております。

東口は、もう一つの機能といたしまして、みなとみらい地区の玄関口という機能を持っております。今私どもは、岡目八目で見ておりますが、横浜市の中心部は湾岸に移りつつ様子がございまして、先ほど鳥居会長がおっしゃいましたように、人口増を基盤にして計画を立てるのではなく、やはり足もとを見て、考え直すところは考え直さなければいけないというご指摘もございます。1日200万人もの人が出入りする横浜駅です。今後も重要な役割を担っていくと思われませんが、海外からも多くの観光客に来ていただく魅力的なまちづくりにつきましても、東口、西口の振興協議会が連携して、一体となって進めていきたいと考えておりますので、よろしくご指導のほどをお願い申し上げます。コメントとさせていただきます。ありがとうございます。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございます。続きまして、コーディネーターをお願いしております、URの中村部長よりお願いいたします。

(独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部事業推進部 中村担当部長)

URの中村でございます。

今さまざまな事業や計画が動いておりますが、地域全体をバリューアップし、バリューアップし続けることが、ここに集った私たちの共通の目標だと思っております。そのためには、計画の調整だとか来場者の安全といったことも含めた工事上の調整、それから、でき上がった後の利活用だとか、そういったこともこれからますます必要だと考えております。そのために、本日のような懇談会だとか、日々の情報共有が、これからますます重要になると認識しております。URといたしましても、コーディネーターとして横浜市をサポートするとともに、皆様の情報共有、合意形成につきましても協力してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございます。色々ご指導いただいております岸井先生、小林先生からも一言ずついただきたいと思います。まず、岸井先生からお願いいたします。

(日本大学 岸井教授)

本日は、色々なご意見いただきました。私はもっぱら基盤関係をお手伝いしておりますので、ご意見を反映していきたいと思っております。個別のプロジェクトにつきましても、既に調整が進んでいます。この場でどうこう申し上げるつもりはございませんが、せっかく関係者皆様が集まっておりますので、ぜひ、こんなことやっていただきたいということを2つお願いしたいと思います。

1つ目は、冒頭に副市長より2019年、2020年のお話がありました。2020年は単なる通過点に過ぎないわけですが、世界中からメディアがやって来る事実はあるわけでありまして、世界中のメディアは、日本を見て帰るわけでありまして、見るのは東京であります。横浜には来ない。それでい

いのか、ということであります。今、東京では、例えばシティーフューチャーギャラリーなど、東京が変わっていく様子を世界の人に見てもらおうというプロジェクトを、民間も交えて進めようとしております。もちろん、大会の取材に来る方たちではありますが、その後のことを考えると、日本に対して興味を持ってもらえるのか、東京や横浜に対して興味を持ってもらえるのか、大変大事なポイントであり、そのチャンスとして絶好なわけであります。こういう機会を横浜はどう扱うのか、世界の横浜とっていただけるのか、極めて大事なことはないかなと思ひまして、それをどうやってやるのかは、ぜひまた、皆様と一緒に考え、2020年には横浜だったらこれだ、という世界に売ることを、駅前を通じて考えていっていただきたいと思ひます。

2つ目は、駅の話でありまして、東京は駅が変わります。立派なもの、バリアフリー対応も含め、新宿駅はターミナル協議会で駅構内の案内サインのやり直しを行います。東京駅、渋谷駅、池袋駅でもやります。みんな同じようなシステムでやろうということで議論をしています。当初は、横浜駅のシステムを見習ってやろうという話でしたが、横浜のシステムを超える可能性が高いです。横浜も負けじと頑張っていたらいいかと、特にバリアフリーの観点では圧倒的に負けてしまう可能性が高いです。東京はオリンピックのために否が応でもやらねばならなくて、かなり質の高いものを恐らくやるし、東京都もお金を出すとっております。国もバリアフリーに関しては、かなり積極的に取り組もうとっておりますので、変わる可能性が高いです。ぜひ、横浜駅も負けじと頑張りたいと思ひますので、手を取り合って、横浜にも人を引きつけて、日本の中でも横浜はいい街だなと、世界に横浜の名前が残るようにしていきたいと思ひます。これからもぜひよろしくお願いしたいと思ひます。以上でございます。

(横浜国立大学 小林名誉教授)

私から、若干お願いしたい点をお話させていただきます。

何人かの委員の方から、これから人口減少する世代にあわせた都市づくり、まちづくりをしていくというご意見いただきましたが、そのとおりだと思います。これまで、あるものをつくると、次はこれをつくると、つくったものを順次、皆さんに供してまちづくりをやってきたわけです。しかし、これからはつくったものをいかに大切に、市民、住民の方々に有効に活用していただくか、あるいは、そこにいる企業の方々が、その空間を使って、いかに有効的にそれぞれの企業活動ができるかを考える時代に入ってきております。そういうことを考えたときに、重要なことは、エリアマネジメントの推進だと思っております。本日も大きなテーマとして出され、初めてエキサイト全体のエリアマネジメントも若干の方向性が示されて、具体的な事例が色々紹介いただきました。大変良いことだと思っております、これからますます街をつくった後に、どうやって、それをうまく活性化に寄与させていくかをテーマとして考えていく必要があると思っております。ただ、残念ながら、エキサイトよこはまでエリアマネジメント活動をやろうとしても、その活動をする公開空地がありません。本日、東口でこういう空間を活用していますというお話がありましたが、非常にご苦労されて公開空地を見つけ、色々な活動をやっているように感じます。西口はもっと厳しい状態になると思っております、そこに関して2つ提言がございます。

1つは、西口で今、駅周辺の公開空地として活用できる場所は、ビブレ前の空間であり、この空間をどう有効に活用するかということです。ビブレ前の空間は河川の上、県の河川の上ですが、道路扱いになっており、県と市からあの空間に、色々な注文を出せることになっており、現在は有効に活用できる状況ではないと思っております。例えば、東京で私が関わっている大手町の事例ですと、公開空地は年中、有料で業者に使っていただき色々なイベントをやっています。また、オープンカフェを出して、そこから収益を上げることが可能になっております。1,000万円とか1,500万円という単位で、収益を上げ、エリアマネジメントの活動費にしております。本日、西口と東口が別々にエリアマネジメントのご紹介がございましたが、西口、東口が別々にお財布を持って努力されていることだと思ひます。もし、新たな横浜駅の姿が変わって、横浜駅全体として、これだけの街の活

性化、駅の活性化をやっていると皆様にお示しするのであれば、恐らく新たな組織として、はまマネ協議会を活性化する必要があります。しかし、はまマネ協議会は現在ほとんど財源がありません。はまマネ協議会の財源をどこに求めるかと考えると、1つは西口のビブレ前の空間ではないかと思えます。この他にも色々と活用できる場所を見つけて、はまマネ協議会が横浜駅全体のエリアマネジメントができるような組織になる必要があるということが1つ目です。

もう1つは、地下街との関係です。現在西口広場を囲む地権者の皆様が集まって進められている、西口のまちづくり、将来構想を考える会は大変結構なことだと思いますし、JRが駅前広場を整備した後も続けていただきたいと思えます。これから周辺ビルの建て替えが、恐らく10年とか20年というスパンで始まってくると思えます。その際、西口を現在の限られた公開空地や公共空間以外にも、アトリウムなどの多様な空間をつくり出して、西口の空間を豊かにできる方法を、ぜひ考えていただきたいと思えます。そのときに、障害があるのは地下街との関係です。相鉄のホテル建設の際、地下街との関係で、西口広場との関係が非常に制約された形でしか開発できませんでした。開発と地下街との関係を見直し、西口周辺の開発を、どうやって連動させて、民間の敷地の中でエリマネ組織が活用可能な空間をつくり出すかが、これからの西口を考える上で極めて重要ではないかと思っております。時間がかかると思いますが、皆様で、私も少し関係して議論させていただければと思っております。

以上でございます。

(横浜市 平原副市長)

ありがとうございました。最後に、本日は欠席されておりますが、北山先生よりコメントをいただいておりますので、事務局よりお願いします。

(法政大学 北山教授) ※事務局代読

3点お願いがございます。

まず1点目ですが、東西のまちづくりの考え方です。横浜駅の東西は、それぞれの特徴を持っており、東口は港が近く、みなとみらい地区に隣接している横浜の玄関口です。また、西口は背後に住宅地を抱えている人に優しい街です。それぞれの特徴を生かして、横浜らしさをアピールするまちづくりを進めてほしいと思っております。東口につきましては、海に向かうビスタポイント、ビューポイント、見え方を意識するとともに、ベイエリアを楽しむことができる空間をつくってほしいと思っております。

次に2点目は、西口の将来のまちづくり検討についてです。検討にあたっては、しっかりとゴールのビジョン、人に優しい空間、東京とは違う横浜らしさを意識して検討を進めてほしいと思っております。また、現在の西口駅前広場は、建物に囲まれているため圧迫感があり、建て替えの際には高さなど、全体のボリュームを意識してほしいと思っております。

それから、3点目は水上交通についてです。東口は横浜の玄関口であり、新たな交通として出島地区に水上交通を意識した検討を進めてほしいと思っております。羽田空港からのアクセスは重要であり、水上交通は、その1つの手段になり、また横浜らしいベイエリアでの水面を楽しむ活動のアイデアを考えてほしいと思っております。以上でございます。

(横浜市 平原副市長)

それではお時間も過ぎておりますので、都市整備局長から議論の総括として一言お願いしたいと思います。

(都市整備局 薬師寺都市整備局長)

都市整備局長薬師寺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回初めて、懇談会に出席させていただきました。改めて皆様方の公共空間、あるいは、その交通基盤に対する期待の大きさもひしひしと感じました。鳥居会長からは根本的な変更もいるじゃないかというような厳しいご指摘もいただきまして、横浜市も引き続き頑張りたいと思います。

本日説明させていただきました、横浜駅周辺の附置義務駐車台数の緩和は、このまちづくり協議会の中で、駐車場についてもルールづくりをしていただいていることが大きなポイントになったと考えております。今後ともぜひ皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

また、小林先生からエリアマネジメントの重要性のご指摘がございました。私も正にそのとおりに感じており、ハードのつくる過程でもそうでございますし、またでき上がった後のエリアマネジメントにつきましても、ぜひご参加の皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げますということで、終わりのご挨拶とさせていただきます。

本日は皆様方、お忙しい中、ありがとうございました。

4. 閉会

(横浜市)

閉会のあいさつ